

|   |  |
|---|--|
|  | 編集/コンビニの会事務局<br>連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431<br>TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)  |
|   | 障害をもつ人たちの地域生活を支援する<br>特定非営利活動法人<br><b>コンビニの会</b><br>定価/150円<br>昭和54年8月1日第三種郵便物認可 |
| <hr/> <b>第124号</b> <hr/>  |  |



南三陸町の校舎の宿「さんさん館」は体験メニューが豊富だ

## 木造校舎の情景

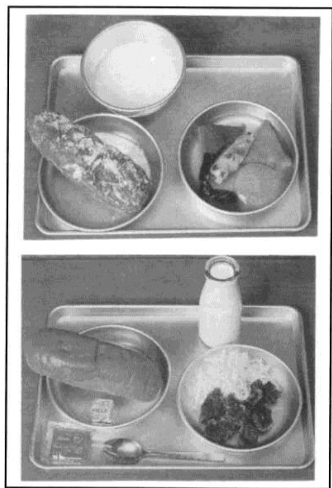
カメラマン 安藤 吉郎

ある新聞で木造校舎の記事が目にとまった。岐阜の山あいの廃校になった総ヒノキ作りの小学校をどう活用していくのか、それとも、解体してしまうのか、存続に揺れているということだった。全国にまだまだ現存する木造校舎は消えていく運命にある一方、木の持つ安らぎが見直され、新たに建て替える地域があるそうだ。鉄筋コンクリートの校舎より落ち着きを感じられる子供が多いという意見もある。いずれにせよ、懐かしい木造校舎はふるさとの原風景の一つだ。昔から知られている小豆島の「岬の分教場」は、二十四の瞳映画村として地域の活性化につなげている。

最近、リノベーション(用途や機能を変更して付加価値を付ける)という言葉をよく耳にする。カフェやギャラリー、イベントなど地域の拠点として活用されているところも多々ある。東日本大震災後に南三陸町(宮城)の木造校舎を訪れ、代表者に話を聞く機会があった。

(次頁へ)

幸い沿岸部から5キロほど山あい、津波の被害はなかったようだ。平成十一年に廃校となった小学校を残したいとの想いで卒業生が中心となり、運営事業組合を作った。農林漁業のグリーンツーリズム体験できる宿泊施設に生まれ変わった。その種類の多さに驚かされる。以前に「昭和の小学生」(大百科(宝島社刊))というタイトルの冊子作りで各地を回った。昭和三十年代～四十年代の学校現場の備品や遊びの道具を撮影した。長野県の訪れた木造校舎が四年前に火事で焼失したと聞いて驚愕してしまった。浜岡町(静岡)では給食のメニューを出す「学校に行こう」という店もあった。又、師勝町(北名古屋)の郷土資料館は、常設展示で街かどや庶民の生活・暮らしが再現されている。かつて東京五輪の年、小学四年生だった私は、今でも学校に時々行く機会があり、子供たちとふれあえることは職業冥利に尽きる。



店の給食メニュー

(上)おでん、揚げパン、脱脂粉乳

(下) 鯨の竜田揚げ、コッペンパン、ミルク

雑記  
ごまめの歯ざしり

なの花とミツバチ

毎年春になると、我が家の庭に小さななの花畑ができて上がる。遠くからでも目立つ黄色は多くの人の目に留まるらしくて、庭の手入れをしているとよく見知らぬ人から声を掛けられる。子供の頃の田舎の風景を思い出したという方は多く一頻り田舎談議に花が咲いたりもする。また花を見るだけで癒されるといつて、毎日の散歩の途中立ち寄って下さるご近所の方もいる。庭になの花を植えるなんて発想は少しもなかった私は、自然の持つ力の大きさに驚いている。

私になの花畑を作るようになったきっかけはミツバチである。同じ地区にハチを育て、ハチミツの販売もしている「みつばちバーヤの会」がある。数年前我が家に新しく庭ができた時、その会員の方から大量の種を頂いたのだ。緑の少ない都会では花作りも養蜂の大事な仕事のひとつらしい。会では名古屋城の外堀に続く旧名鉄線路跡の土居下外苑にたくさんの花を育てている。春はなの花、夏はひまわり、秋はキバナコスモスが主な蜜源だそうで、その他にもラベンダーなどハープ系の花々も植えられている。

なの花が咲くと我が家にも毎日ハチが訪れる。けれどせいぜい1匹か2匹だ。お話によるとハチは3〜4匹が一つのグループになって行動しているのだそうだ。蜜を取り過ぎないよう自然との調和がなされているのだ。会の方々と話していると大きなミツバチ愛が伝わってきてなんだかほっこりとした気分になる。

親の介護も終わり、大好きな庭仕事をする時間も増えた。こんなことばかりしていないのだからと不安がよぎることもある。けれど我が家の小さな庭にたくさんの人が癒されていることを知って、これも小さな社会貢献かと今日もまた花作りに精を出す私である。

(会報委員 大島 伊久代)

## 新たな年を迎えて

社会福祉法人 エゼル福祉会

理事長 大川 美知子

新年おめでとう御座います。

社会福祉法人改革を始め世の中の変化が目まぐるしく、その変化について行こうと四苦八苦している間に2016年が暮れて行きました。私も含めてエゼル福祉会全体が実に忙しい一年でした。

さて、新たな年も試練と希望の狭間で揺れながら歩き続けることになりそうな予感が致します。なぜなら昨年の夏ごろから新たな拠点を設ける必要が職員会議で話題となり土地探しが始まっていました。年明け早々に開かれる評議員会、理事会では、新たな社会

福祉法人法に基づくエゼル福祉会の新定款の承認を得ることと共に、具体的な土地の購入についてと言う議題で協議されることが決まったからです。

### ◆ 新たな拠点を必要とする訳は・・・ ◆

新たな拠点の立ち上げに着手する理由の一つは通所施設ウイルの狭さを解消することにあります。エゼル福祉会は、障害のある方々の親御さんを支えよう、日々の介護負担を軽くしたいと願う市民の助け合い、所謂ボランティア活動から始まりました。

その為、ウイルに集まっている仲間たちの障害が多様で、それぞれに合わせた個別の活動を作るためには現在の設備や部屋数では賅えないと言う問題を抱えています。

授産活動でお金を稼ぎたい障害のある仲間たち、もう少しゆつくり過ごして楽しい個

別の活動を・・・と、願う仲間たちそれぞれのニーズに応じて行きたいと言う思いから拠点の増設が話し合われるようになりました。

理由の二つ目は、近くの名古屋特別支援学校を卒業される進路保障の課題に向き合いたいと言う社会福祉法人としての地域社会への責任感からです。

昨年末に開かれたクリスマス会には名古屋特別支援学校を二〇一八年の三月に卒業される方々が親子で二〇名近く参加して下さいました。

地域の社会福祉団体として特別支援学校在学中の親御さんたちや子供たちと交流を持ちたいと思いながら、中々実現できませんでしたが、昨年の夏祭りやクリスマス会では、長年願っていたことを形にできて嬉しく思いました。もう、三〇年近くも前のことになりましたが、私も障害のある娘の進路先を

選びたくて、卒業する二年も前から通所施設  
の選択（施設作り）を始めていました。在学  
中から将来どのような日中活動を願ってい  
るのかについて親御さんと職員の間で充分  
な話し合いができることが大切だと思いま  
す。

#### ◆ 願い実現に必要なもの ◆

新たな拠点の立ち上げ実現のためには、与  
えられなくてはならないものが幾つかあり  
ます。一つは場所（土地）です。二つ目は建  
設の為の知恵と費用です。

建設に直結する具体的な知恵は設計管理  
の専門家である設計管理会社が一番得意な  
のでしようが、設計事務所に自分たちが必要  
としているものを伝えるのは日々介助・介護  
に関わる職員やその場で過ごす当事者たち  
です。建設の為の費用は行政に依る設備整備  
補助金の交付です。行政の福祉計画に私たち

の願いに沿ったものであることを願ってい  
ます。

#### ◆ 一番難しい職員採用の課題 ◆

そして、今の時代に一番難しいと予測され  
るのは、やはり職員の採用問題です。

昨年末の職員会議や評議員会で相談事業  
の廃止が検討されました。

結局、相談事業の廃止は中止され継続が決  
まりましたが、現在行っている5つの事業を  
保って行くだけでも厳しい状況が続いてい  
るのは事実なのです。

今、エゼル福祉会は結婚と出産のラッシュ  
を迎えています。

活動が始まって一〇年くらいは、給与を始  
めとする処遇が大変貧しく結婚の話は全く  
ありませんでした。職員処遇が改善されると  
共に実に嬉しいことに結婚、出産が相次いで  
います。

ベテラン職員が産休、育児休暇で現場不在  
となる中での新たな拠点の立ち上げは大丈  
夫なのかと揺れる思いもありますが、昨年は  
新たな職員の採用が続き八年以上になる中  
堅の職員が確かな成長を見せてくれても居  
ます。

#### ◆ 暮らしの場を作る ◆

暮れに東京で「暮らしの場を作る」と言う  
テーマで全国から親御さんと職員、障害者自  
身が集まり、安心して暮らせる暮らしの場と  
はどう言う条件が備えられなくてはならな  
いのかと言う話し合いがあり、厚生労働省の  
職員の皆さんの前で親の思いが語られまし  
た。私は毎年、この研修会に参加してエゼル  
福祉会の親御さんもこのような場を体験し  
て欲しいと強く願っていました。そこで、法  
人の研修費に親御さんの研修参加費を組み  
込んで、東京までの旅費と宿泊費を予定して

いたのですが、親御さんの積極的な参加はありませんでした。

暮らしの場を必要としている方々は居られると思いますが、具体的な話を始めるきっかけが作れなくて先に進みません。新たな拠点作りの活動が未来を拓くものであるなら、「暮らしの場」作りは未来そのものだと思います。

#### ◆ 職員アンケートでは・・・ ◆

昨年の秋に常勤職員を対象にアンケートを取らせて貰いました。

できるだけ本音で回答できることを願って、答えにくい設問は無記名にしました。

自分の意志をきちんと表明してくれることを期待した設問には、自由記述も含めてきちんと答えてくれた職員が複数名いましたので、大変心強く思いました。

また、私の予想に反した答えが結構たくさんあつたことに驚き嬉しくも思いました。

一番、びっくりしたのは、処遇（給与）に対する満足度でした。

「満足している」と言う回答が大半で中には「貰い過ぎだ」と言う回答もありました。働いている部門や立場によっても答えは違うのだと思いますが、全体的には落ち着いて仕事に励んで居てくれる印象を受けました。

現在、このアンケート結果を基に職員と個別の面接を行っている最中です。既に生活支援部の職員との個別懇談は終了しましたが、職員ときちんと話すことは変な表現ですが、私に取って本当に為になると思えました。

課題が見えると改善のヒントになり、深い思いを聴かせる職員の対して「未来を期待できる」と幸せな気持ちになりました。

#### ◆ 今年は・・・ ◆

日頃、疎遠になりがちな通所部門の職員と今年は充分な話し合いのできる年にしたいと願っています。私は通所施設ウィルが開所したばかりのころ二年ほど職員や仲間たちと一緒に活動していました。今思うと実に楽しい日々だった気がします。

再び、仲間たちと交わりながらみんなの未来を職員と語り合う機会が与えられることを嬉しく思っています。試験と期待の狭間で揺れながら新たな年を歩き出したいと思えます。



# 2016クリスマス会



12月17日(土) 北区役所講堂にて  
クリスマス会を開催しました  
今年是人形劇団 紙風船の「ポーちゃん」を鑑賞しました

★ 伊藤大介さんの  
開会宣言でスタート〜♪ ★



★ ウィルのお菓子の紹介  
(渡辺 武司さん) ★



★ イオン・ワンダーシティサンタさんから  
プレゼントをいただきました ★

当日ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(順不同・敬称略)  
土田 京香 大瀧 宥乃 山下 沙也加 松井 彩斗 間瀬 敬人 河合 尚武 黒木 健司 鍵水 みなみ  
奥田 華江 青木 政治 桑原 諸彰 小山 紗穂 安達 日奈子 勝野 綾 松尾 茉奈 稲葉 結香 藤井 夏鈴  
奥田 咲季 原 未来 中山 雄介 寺西 剛 加藤 英樹 鬼頭 優菜 進士 陽介 福井 遥己 藤井 香帆  
仲木 しゅう 北島 ゆり香 井上 祐子 長谷川 ぱんだ(司会者) 長谷川 友子・伴 舞子(カメラマン)



★ Ritz(リッツ) ★

今年も楽しい演奏、ありがとう！  
お礼にウィルのお菓子をプレゼント♪



お楽しみ大抽選会



★ ホテルお食事券が当たった～♪ ★

ご寄付・ご支援いただいた皆様(順不同)

- イオンワンダーシティ様
- (株)東海電気システム  
代表取締役会長 増田修様
- (株)カミヤマ印刷様
- G Tソリューション(株)様
- 高橋会計事務所様
- 田中武雅様
- (有)鈴幸商会様
- (有)米本不動産様
- オートサービス名古屋(株)様
- (株)大川商会様
- 三井住友海上火災保険(株)  
愛知支部一宮支店様
- 日新火災海上保険(株)  
東海第一事業部営業第2課様
- 愛知銀行 小田井支店様
- 大垣共立銀行 小田井支店様
- 中小田井郵便局様

### いま、利用契約制度を問う

～障害者に安心と幸せを

もたらす制度とは～

(No.3)

日本福祉大学 木全 和巳

前回は、「我が事・丸ごと」(地域共生社会実現本部)の中味について、「地域共生社会」という耳触りのよいスローガンは使っているけれど、互助、共助のしくみを押しつける「笑い事」では、済まされない「億総活躍」の強制であり、「総戦時体制」の着実な進行であると解説しました。今回は、こうした施策のもとで進行している「人材

難」の実態について、考えていきましょう。

いま障がい福祉現場は、二重の意味で、

「人材難」です。一つ目は、そもそも募集

をしても人が集まらないという意味で。福祉

サービスが商品化されて久しい「ふくし現場」の低賃金、長時間労働の実態について、

学生たちは、「ブラック企業と同一視」している現実があります。そこには、「ふくし

のこころ」が強調され、「ボランティア労働」が蔓延している実態もあります。加えて、学生たちからしてみると、労働時間外の

きょうさん活動や労働組合活動などは、自主性、自発性を尊重していると言っても、

「強制」と感じられるようです。がんばっている若い人たちも疲れ、「有望な新人」

が辞めていきます。わたしが関わっているほと

んどの良心的なきょうさん加盟の事業所の所長クラスから顔を合わせる度に「誰か

いい人はいないか」と聞かれます。最近では、「誰でもいい」に「いい」が変化してきています。このように、そもそも、行きたがらない、足りない、集まらないという量的な人材難があります。

この間の政府、厚労省の一連の施策(賃金補填、ロボット、IT、資格科目の共通化、キャリアパスなど)も、一面ではこうした実態の財界や官僚なりの対応です。

二つ目は、自傷他害のような行動障がい

が辞めていきます。わたしが関わっているほと



二つ目は、自傷他害のような行動障がい



伴う重い自閉性障がいや軽度であつても愛着障がいや性の問題や盗癖などがあるとい

うように、貧困と格差が広がり、生い立ちを含めて、ていねいな学習と支援を受けてこられなかった当事者が増えています。また、学校教育の現場でも、キャリア教育などの管理と強制が強まり、青年たちの発達を大切にしたい教育が保障されていない現実があります。保護者たちも、競争と管理と市場化、商品化の中で育ってきているので、機能障がいの受けとめ、金で買う福祉サービスという歪んだ消費者意識、貧困の中での子育てなど、ともに当事者と育ちつつ、社会運動を担う主体として共に成長していくようなわたしたちがのぞむような保護者は少なくなりつつあり

ます。保護者自身にも支援が必要な人たちが増えてきています。

こうした実態にあるので、支援を必要とする当事者たちの支援には、かなり高度な専門性が必要とされるのですが、現実には、十分な学習（研修）も保障されなまま、人手不足の厳しい現場に、送り込まれます。そのために、特に若者たちは、知識や技術や価値が定着することもなく、疲れ果てて、辞めていくこととなります。施設内での虐待事例も目に余ります。せつかく正規で、就職できてもパート職員との軋轢なども含め、職場の人間関係もうまく行かずに、辞めていくことが多いです。良心的な事業所であつても「発達保障」とか「人権」という価値はお題目

になり、「経営」に追われ、とにかく日々何事もなく過ぎていけばとりあえず安心という実態もあります。社会福祉専門職として大切にしたい基本的なちからが身につかないまま転職を繰り返していきます。量だけでなく、「専門職としての質」の問題が改めて問われています。

政府は、こうした事態について、どのように対応しようとしているのでしょうか。それは、次回に報告します。



## 事務局コーナー



## 「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方を含む

浦野三男 S・I 中根勝見

黒崎とし子 アイ トクメイ

東名メンテナンス

(エゼル福祉会)

ウイル親の会 山田美治 中村安孝

早川てるゑ・直子

(クリスマス会 寄付者)

神谷佳広 松原伸二 宮川優子

村田昌史 堀江良子 山田肥名子

大島伊久代 大川美知子 渥美匡史

寺澤慶英

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

伊藤夢子 丹羽恵子 塩澤しのか

竹内まりや 世古卓夫 水谷由香

辻本道子 石原まち 藤本由紀子

桑原諸彰 東名メンテナンス

(WILL)

(株)さんわコーポレーション

(社福)中部善意銀行

名古屋食肉三水会協同組合

丹羽恵子 早川佳乃 河田笑子

渡辺武司 佐藤慶太 日比野照代

高松幸太 疋田盛三 林 勇樹

塩澤しのか

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

伊奈晶子 石原正寅 青木政治 辻本道子

桑原諸彰 黒田隆広 林 和子 高塚朱美

石原まち 梶原 亮 鬼頭優菜 酒井まみ子

楠村ゆき 竹内恵子 奥村 修 寺田みどり

東原光江 田口陽介 加藤 結 藤本由紀子

寺西 剛 星野恭兵 辻本有沙 大瀧有乃

加藤志歩 土田京加 堀 浩二 赤坂美登里

加藤礼菜 辻本沙利菜 山下沙也加

鷲見澄世 曾我直子 北島ゆり香

(WILL)

武部 文 須田たみ子 宮部恵美子

斉藤末子 北島ゆり香

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子

高松陽子 吉田嘉子



| 11月    |                            | 《活動状況》     |  | 12月    |               |
|--------|----------------------------|------------|--|--------|---------------|
| 5日     | 防災訓練                       |            |  | 1日     | 会報会議          |
| 6日     | ヘルパー学習会                    |            |  | 4日     | ヘルパー学習会       |
| 8日     | 社会福祉協議会中堅職員研修              | (榊原)       |  | 5日     | 社会福祉協議会 薬学研修  |
| 10-11日 | きょうざれん利用者部会                | (久野)       |  |        | (渥美・大西)       |
| 11日    | 名古屋生活支援事業所連絡会<br>名古屋市との懇談会 | (大川・榊原)    |  | 10日    | 理事会・評議員会      |
| 18日    | ケースワーク会議                   |            |  | 13日    | 新卒採用試験        |
| 21日    | 会報発送                       |            |  | 16日    | 日本福祉大学木全ゼミ訪問  |
| 22日    | 喀痰吸引3号研修実地研修               | (石原)       |  |        | (榊原)          |
| 23-24日 | 障全協全国大会                    | (大川・渥美・溝口) |  | 17日    | クリスマス会        |
| 26日    | 全職員研修                      |            |  | 20日    | 新任職員ステップアップ研修 |
| 29日    | 生活支援事業所連絡会会議               | (榊原)       |  |        | (坪内)          |
| 24日    | WILL 親の会                   |            |  | 22-23日 | 生活支援部総括会議     |
|        |                            |            |  | 28日    | 通所部総括会議       |



🐧 クリスマス会収支ご報告 2016/12/17 🐧

| 収 入                  |              |         | 支 出                  |            |         |
|----------------------|--------------|---------|----------------------|------------|---------|
| 明 細                  | 寄付のお品        | 現 金     | 明 細                  | 寄付のお品      | 現 金     |
| 1 クリスマスケット売り上げ 131名様 |              | 80,200  | 1 会場費 北区役所講堂         |            | 16,400  |
| 2 寄付金                |              |         | 2 舞台・演出備品            |            | 8,704   |
| ご支援いただいた企業様 11社      |              | 106,000 | 3 出演・謝礼費等            |            | 124,734 |
| ご支援いただいた個人様 2名       |              | 22,000  | 4 その他・雑費             |            | 68,292  |
| 役員一同                 |              | 41,000  | 景品購入                 |            |         |
|                      |              |         | お土産お菓子・保険・ボランティア懇談会等 |            |         |
| 3 寄付のお品              |              |         | 5 抽選の品               | 特別賞 ステーキ肉  |         |
| ご支援いただいた企業様 4社       | ホテルお食事券      |         |                      | 1等 ホテル食事券  |         |
| ご支援いただいた個人様 2名       | ステーキ肉        |         |                      | 2等 ハム詰め合わせ |         |
|                      | ハム詰め合わせ      |         |                      | 3等 お米      |         |
|                      | お米           |         |                      | 4等 日用品セット  |         |
|                      | カップ麺         |         |                      | 5等 カップ麺    |         |
|                      | BOXティッシュ     |         |                      | BOXティッシュ   |         |
|                      | サンタトレットペーパー  |         |                      |            |         |
|                      | タオル          |         | 6 参加者様へのお飲み物         | コーヒー       |         |
|                      | ムーミンお皿・マグカップ |         |                      | お茶         |         |
|                      | コーヒー         |         |                      |            |         |
|                      | お茶           |         |                      |            |         |
| 合 計                  |              | 249,200 | 合 計                  |            | 218,130 |

※差引残高は公益事業会計に繰入します。

差 引 31,070



# エセル福祉会 2016 クリスマス会



昨年行われたクリスマス会にたくさんご参加いただき、ありがとうございました。  
皆様にとってすばらしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

## 銀行口座

三菱東京 UFJ 銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

**コンビニハウス** Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

## コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail [convini@beach.ocn.ne.jp](mailto:convini@beach.ocn.ne.jp)

発行所：東海身体障害者団体定期刊行物協会 名古屋市中区丸の内 3-6-43 みこころセンター 4階